

東京都多摩地区の自治体が外国人支援事業の内容を一步進め、旧来の友好・交流イベント中心から就労、就学などに比重を移している。景気低迷下でも外国人の定住人口はじわりと増えている。

地域に溶け込むのに積極的に手を貸すことで街の活性化も狙っている。「バスケットボールを本格的にやるにはどの高校がいいの」「どうすれば奨学金がもらえるのか」。武蔵野市が昨夏、外郭団体を通じて初めて開いた外国人向けの「高校進学ガイダンス」。

中国、フィリピン、コロンビアなどの国籍の親子計101人から熱っぽい質問が続いた。「日本人に比べ高校進学率が格段

自治体支援「友好」から前進

外国人の就労・就学に軸足



局長)という。

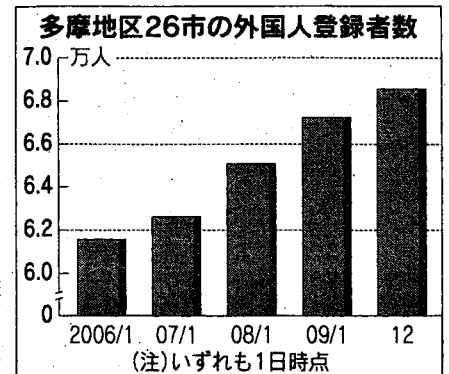
昨年3月には留学生向けの就職支援セミナーを初開催。市商工会議所などとの共催による2回のセミナーには延べ29人が参加、うち2人が内定を得た。「優秀な留学生が市内で職に就くことは市経済にプラス。帰国後の人脈も築ける」(国際交流課)との思惑がある。

八王子市は昨年10月、学園都市文化課の国際化推進担当係を国際交流課として独立させた。市内23大学の多くが延べ九十数万人から留学生を受け入れている。八王子国際協会によると「帰国前に日本企業に就職して工場管理などスキルを身に付けようとする留学生が増えている」(斎藤健事務

地域の活性化もめざす



町民祭では外国語の生活ガイドブックを配布(八王子市)



生活支援の必要性が高まっている」と話す。八王子市の唐松町会が夏に開いた町民祭期間中には外国人が気軽に参加できるような広場に「国際交流コーナー」を設けた。昨年2日間14万国出身の58人がそうめん流しや踊りなどを楽しんだが、催しは娯楽の提供だけが目的ではない。コーナでは英中韓3カ国語の生活ガイドブックを配布。Aのほか、周辺地域の医療機関、保育所、市役所に滞在する外国人に実際に役立つ事業でなければ「滞在する外国人に実際予算に理解が得られな」と漏らす。財政難で「南米出身者が多く住む八王子市北野町では昨年11月、新たにスペイン語、ポルトガル語版の方景になっている。(大西和徳)

東京